

4. 事例発表 2

(1) 徳島市立津田中学校

佐藤 康德 （徳島市立津田中学校 教諭）

小西 正志 （徳島市立徳島中学校 教諭）

1.津田中学校で防災講座を担当していた佐藤です。テーマは「繋がり、地域に貢献する防災学習」です。私は、防災学習は二つのことから成り立っているのではないかと考えております。一つは担任の先生が教室で行う防災学習。もう一つは担任の先生以外が教室以外で行う防災学習。今から私が発表させていただきます内容につきましては、担任でない私が学校以外で行っている防災学習になります

2.本校は生徒数 350 人前後で、全学級、全学年とも 3～4 学級くらいです。特別支援学級が 2 学級あります。南海東南海地震が発生した場合に、20%前後の家が倒壊するであろうと言われています。地震発生後 53 分くらいで第二波。第二波で最大の浸水が 6.2m に到達するという想定です。津田中学校区のほとんどは津波で水没します。真ん中に津田山っていう山があります。この津田山だけが高いので残る。それ以外は全て水没すると言われております。

3.私が行っていた防災学習は、2 年生 3 年生の総合学習の時間に『防災講座』という講座を設定しまして、希望する生徒が選択をします。選択をしない生徒達は、人権の講座であったり環境講座であったりとか、別の講座を選択して、一年間勉強します。防災講座は平成 17 年度から開設されています。授業時間中に企画して、活動は放課後とか夏休み冬休み、土曜日日曜日に活動しております。

4.防災学習を最初に始めた理由は、海に近いということと、その当時、南海地震が発生する可能性がこれくらいですと言われて始めた時期であった。それと何よりも、協力者、市社協の人がいたことです。この人が全面的に協力してくれたので始める事ができました。最初に年間計画、カリキュラムを考えるとときに集まった人が、私と市社協 2 人、県社協 1 人、徳大の教授が 1 人、町内の自主防災の会長さんが 1 人の全部で六人でした。

5.現在はこういう状態になっています。4 月にカリキュラム研究会を行うんですが、ここに町内の人とか徳大の先生とかそれ以外の協力者の方が 25、6 名集まって、カリキュラ



小西 正志先生

本校の概要

生徒数 350人前後(1年4学級、2年と3年3～4学級、特設2学級)

南海・東南海地震が発生すると・・・
昭和56年以前の建物が多く、倒壊率20%前後の予想
狭い道のブロック塀は倒れ、津田山の一部は崩落
最大津波は53分まで到達の予想、最大浸水深6.2m
津田中学校区ほとんど、津波で水没する予想

2

防災学習・活動を行う 企画

2、3年生の**総合学習の時間**に、**防災講座を設定**(希望する生徒が選択)
その他、人権講座、環境講座、食講座 など
防災講座は平成17年度～

+

防災講座を選択した生徒は 活動

放課後、夏休み、冬休み、土日

3

防災学習を始めた理由

- ☆ 海に近い
- ☆ 南海地震が発生する可能性が言われ始めた
30年後・・・50% 50年後・・・30%
- ☆ 協力者がいた(市社協)

平成17年・18年度の4月
防災教育年間カリキュラムの作成者

教員(私)、市社協(2人)、県社協(1人)
徳大教授(1人)、町内自主防災会長(1人)

4

カリキュラム作成会
H24.4.24

夏休み調査引率者会
H24.7.12

ムを検討します。夏休みには調査研究がありますが、そこには OB も入って、引率します。なので、30 数名の者が集まって引率者会を開く。このように大々的に取り組んでおります。

6. 1、2 年目の主な学習内容ですが、青で書いて活動が現在の続けているもので、黒で書いてあるのはこの年限りのものです。1 番は防災意識調査。2 番は意識調査結果の配布・掲示。3 番が町内の避難訓練に参加。疑似体験とか避難経路の確認とか防潮林の植樹などをしましたが、この年限りでそれ以降はやっておりません。
7. 防災意識調査の様子です。このように一軒一軒、子どもが訪問します。ここには 1,100 人と書いてありますが、年によって異なり、だいたい 2,000 人弱くらいです。町民が 16,000 人です。
8. その結果を子どもたちがまとめて、町内の方に掲示入してもらいます。例えば、ラーメン屋さん、銭湯、大きなスーパー、銀行、コンビニなどを訪問して、貼ってもらえようをお願いしてきます。
9. 町内の避難訓練へ参加ですが、最初は参加しただけですが、子どもたちが受付をやったりとか、あめを配ったりとか、何かの仕事を任される形で運営に関わっています。
- 10 3 年目なんですけど、ここで一つの大きな転機がありました。生徒から「防災学習は校内だけで活動していても駄目だ。校外へ出て、色んな人と繋がらなければ駄目だ」の発言がありました。それで 19 年度は、一泊二日の被災キャンプ。それから、みかんジャムを作って高齢者に一軒一軒配布しました。それから、調査結果を町内で発表させてもらったり、阪神淡路大震災の追悼イベントを校区外の大きな公園でさせてもらったりして、これらの活動は今現在も続いております。
11. 一泊二日被災体験で、子どもたちはグラウンドにテント張って宿泊しました。
12. 子どもたちがジャムを作って、高齢者に配っています。
13. 町内の人が集まったときに調査結果を発表させてもらっています。
14. 阪神淡路大震災の追悼イベント。これは今年もやるんですけども、大きな町の真ん中の公園でやっております。もちろん、神戸から希望の灯りを取ってきて、それで町民の人と市民の人に配っております。

平成17年・18年度 主な学習内容

講義(メカニズム、被害予想、防災グッズ、自主防災組織、避難シミュレーションなど)

- 活動 ① 町内防災意識調査
② 意識調査結果の配布・掲示
③ 町内避難訓練に参加
☆ 疑似体験
☆ 避難経路確認
☆ 防潮林植樹

6

① 町内防災意識調査 H24.7.21~7.25



7

② 防災意識調査結果の配布 H24.9.10



8

③ 町内津波避難訓練 H24.11.18



9

平成19年度 生徒の発言

「防災学習は、校内だけで活動してもダメ。校外に出て、いろいろな人と繋がろう」

平成19年度に追加した活動

- ① 1泊2日被災キャンプ(町民一部参加)
- ② ジャムを作り、高齢者宅に配布
- ③ 研究結果を町内で発表(提言)
- ④ 阪神・淡路大震災追悼イベント
- ☆ 防災フォーラムで発表(県民対象)

10

平成20年度に追加した活動

- ☆ 町内炊き出し訓練に参加
- ☆ 災害時要援護者を考える(町内探索)
- ☆ 避難所設営体験(町民と一緒に)
- ☆ 津波高さの表示(町内)

平成21年度に追加した活動

- ① 水害災害のボランティア活動
- ② 幼・小・高齢者に防災出前授業

15

15. 4 年目、5 年目の活動です。町内の炊き出し訓練や要援護者を考えたりとか、避難所の設営体験とか、津波高さの高さを表示したりとか、水害ボランティア、幼小、高齢者に防災出前授業とか。こういうようことを行っております。
16. 岡山県美作市での水害ボランティアの様子です。
17. 幼小出前授業に行っているときの子どもたちの様子です。
18. 6 年目の平成 22 年度に追加した活動は、家具転倒防止器具の設置を一軒一軒に呼び掛けていきました。それと、東日本大震災義援金活動を行いました。
19. 一軒一軒訪問している様子です。
20. 東日本大震災の義援金活動を行って、全部で 314 万円が集まり、被災地にお送りすることができました。
21. 平成 23 年度に追加した活動は、津波避難支援マップを町民と一緒に制作をしたり、市役所とか県知事さんに陳情に行ったり、全国の防災ミーティングに参加したりしました。
22. なぜ子どもたちが避難支援マップの作成を考えたかという、平成 22 年にチリ津波があったとき、子どもたちの調査では、「避難勧告、避難指示が出ていなかったから避難しませんでした」という回答が 67% でした。ところが、3.11 が起こったときには、避難勧告が出たんですが、避難した人は 22% しかいない。このギャップは一体何なんだろうと。前年度には避難勧告が出たら避難すると言っていたのに、実際出たら 22% しか避難してないんじゃないかと。子どもが考えた原因は、人は考えたことは長続きしない。だから、見える場所に避難支援マップの看板を立てる必要があると。
23. これで常に町民の方に語りかける必要があるということで、子どもたちが町民の人と一緒につくりました。
24. 行政への要望ですが、避難場所となっている津田小学校が水没すると思う人が 84%。じゃあどうしたらいいかということで、山を整地してもらいたいと。その当時、山は登れない状態だったんです。道もない。上に平地もない。それで整地して道を付けて欲しい、上に平地を作って欲しいという要望が 40% ありました。これをメインとして、同報無線の設置も含めて行政に要望に出掛けました。
25. 市と県知事さんをお願いに行きました。データに基づいて、子どもは一生懸命説明をしておりました。
26. 全国防災ミーティングにも参加しました。
27. 平成 24 年度に追加した活動は、幼小中の合同避難訓練で

② 幼小防災出前授業 H24.11.20

津田中生出前授業
津田中生出前授業
津田中生出前授業

17

平成22年度に追加した活動

- ① 家具転倒防止器具設置の啓発(町内)
- ② 東日本大震災義援金活動(町内)

18

① 家具転倒防止器具設置の呼びかけ H22.7.28

家具固定を、高齢者に呼び掛け
防災教育

19

平成23年度に追加した活動

- ① 津波避難支援マップの制作(町民と共同)
- ② 行政への陳情(市役所へ、県知事へ)
- ③ 全国防災ミーティングに参加
- ☆ 東日本大震災追悼イベント(徳島)に参加

21

① 津波避難支援マップの作成 理由

平成22、23年度 津田中学生会による調査結果より

平成22年チリ津波 避難しなかった理由
「避難勧告・指示が出ていなかった」 67%

平成23年東日本大震災
「避難勧告が出たので、避難した」 22%

人は、考えたことが長続きしない

見える場所に避難支援マップの看板

22

平成24年度に追加した活動

- ① 保・幼・小・中合同避難訓練
- ② タブレット型PCを使った避難訓練
- ③ 事前復興まちづくり計画の作成

27

さい」、「これをモデルにして作って下さい」ということでやらせて頂きました。防災講座のOBの高校生が避難所運営の運営委員をしました。つまり、高校生と中学生だけで一泊研修をやってしまいました。これちょっと無謀なことをやってしまいましたが、凄く勉強になったと思います。

39.フィールドワークも、このような形で3年間ずっとやってまいりました。300～600軒の間でフィールドワークさせて頂きました。

40.本年度は、津波の浸水域の表示活動を行いました。各家々に「ここまで水が来ますよ」というのを表示する活動をしました。津田の場合は最大5.2mということで、子ども達が基準値から測りまして、2～4.5mくらいの高さにステッカーを貼りました。これは市の方と相談してやってたんですが、もう「中学校だけでやっちゃいます」ということで、中学生が家に回ってこのように貼っていくという活動を行いました。こんな感じです。

41.アンケートを書ってくれた方が沢山道にいて、そのうちの80%、108人の方々に、家の壁や外の壁にテープ貼らせてもらいました。県の側に聞きますと、「こんななに協力してもらえない」とのことで、お願いに行っても「何で貼らないといけないんだ」と言われると。ところが、中学生が行きますと「どうぞどうぞ」「貼って下さいよ」ということで、中学生強しということが何となくわかります。しかも、貼って下さなかった家々の方々は、「昨日の夜掘ったばかりだから止めて」とか理由のある家庭が多くて、それ以外はほとんど貼って頂けたということで、凄く津田の皆様には感謝をしております。

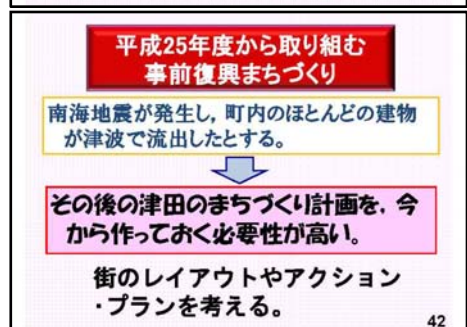
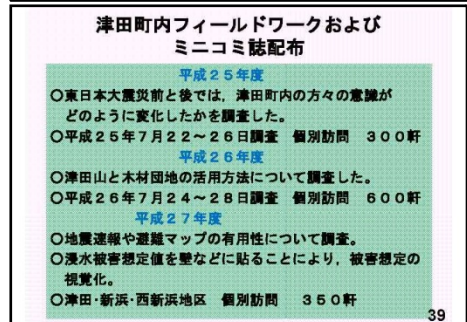
42.事前復興まちづくりです。24年度から始まっておりますが、先輩方を受け継いで、25年度からは実行ということで、町のレイアウトとかアクションプランを考えることを進めています。

43.それぞれの班がこのように町のレイアウトを組みました。

44.そして、そのレイアウトを実際に形にしていくということで、ジオラマを制作しました。後でできますが、これにつきましては、町の方の評価も得ております。

45.この赤線で囲まれた部分は、現在徳島市が開発協議会を立ち上げて、どうやって開発していくのかの折衝が現在お続いています。

46-48.そこで、その中に子ども達の見解を取り入れようとい



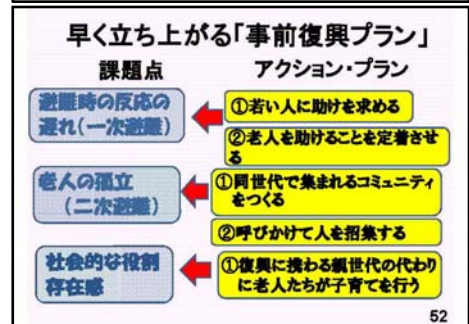
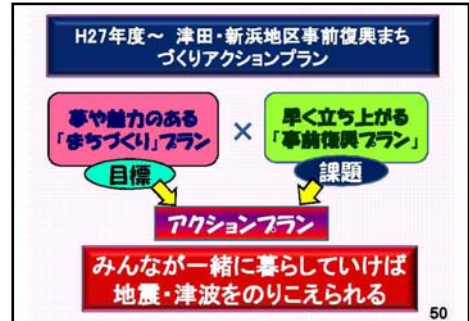
うことで、昨年度、子どもたちが色々案を考えまして、ジオラマを作りまして提示させて頂きました。これが実際にどうなるかわかりませんが、現在折衝中です。子ども達の意見が反映されるのではないかと考えております。

49.先ほど言いましたように、町民への提言ということで見てもらいました。町民からは、子どもたちがつくった案のうち、津田山の上にお城を建てて復興のシンボルとするという案が、一番人気が高かったです。

50.今年度はフィールドワークとして、意識調査をやってみました。その中で、高齢者のうち「逃げない」というような回答が2割強ありました。それから、若い人の避難訓練等への参加が非常に少ない。実は20代30代は非常に知識は高いのですが、「逃げられるだろう」といった誤った認識をしています。防災に対する取り組みが低いというか、意識が低い。その辺りを考えたときに、もう今までの感覚では駄目だなと感じました。

そこで、アクションプランを今年から始めました。“夢や魅力のある「まちづくりプラン」”というのは、先ほど紹介した町のレイアウトです。それにプラスして、“早く立ち上げる「事前復興プラン」”を考えるために課題をみつけることをしました。そのときに、子どもたちは、おじいちゃんの立場で考えてみたり、若い人の立場で考えてみたりして、各年代の人達の感覚をもう一回皆で考えてみて、皆が一緒に暮らしていける、地震津波を乗り越えられるまちづくりを考える。ということが話し合いの中で出てきました。昨年度までは子どもたちは、夢のような町を考えていましたが、今年度からはいよいよ具体的にどのようにしていけば、おじいちゃんも逃げて助かって楽しく過ごせる。若い人達も防災意識を持って頂ける。そういうふうな感じでアクションプランを作ってやりました。

51-52.一つ持って来たのが、75歳のおじいさんの立場で考えてみた結果です。もちろん避難の遅れがございますので、若い人に助けを求めるとか、老人を助けることを定着させるとかというような感じで、このようなアクションプランは必要であろうということで、子ども達の意見を出しました。二次避難の場合、老人が孤立化するであろうと。コミュニティが必要です。人を集めて招集するような力が必要ですね。社会的な役割ということで、子育てをおじいちゃん代わりにやって貰いたいと。30代の方々は仕事があるの



で避難所からすぐ出て行っちゃう。だから、おじいちゃんおばあちゃんに子育てをして欲しいんですよ。というような形で、意識を持ってもらうことで、お年寄を一人にさせないような形でアクションプランを考えました。

54.今回、年代毎に全てつくりました。それぞれの世代を子どもたちが意識ちょっと考えまして、アクションプランを考えてみました。これを見て、意識を高めてもらおうということで、津田中学校の全戸、それから各事業所に配って掲示してもらうようにしてあります。これについては、今年が一年目なので、これからどんどん製錬されていくかと思えます。

55.この地域に根ざした防災学習ということで、実は平成 25 年度から津田中学校防災講座 OB 会が発足しました。

56.津田中学校の卒業生が自主的に活動を行うということで、例えば、お祭りの中で防災テントを作りまして、お祭りに遊びにきた地域の子どもたちに防災の啓発を行いました。

57.町内避難訓練でも OB 会のテントを作りしました。このように、子どもたちが自主的にどんどん地域の中に入っていく、という活動を OB になっても続けて行っています。

58.県議会の方に招かれましたので、ちょっと意見を言わせて頂きました。お金が欲しいとはとても言えなかったですが、色々勉強会に参加させて頂きました。

59.26年度からはデイサービスのおじいちゃんおばあちゃんのところに出かけていって、防災活動をやっております。これにつきましては、子ども達も非常に勉強になりました。これまで避難する時の持出品といえば「水」でしたが、ここへ行ったときにおじいちゃんが「一番大事なものは薬だ」「薬がないと死んでしまうんだ」と言っていたのを聞いて、「避難するときは、一人ひとり持っていく物が違うんだな」と考える大きな転機になりました。

60.これまでお世話になったのがこの方々です。これは津田防災のゆるキャラです。「たるぼう」といいます。新しく作りました。

61.津田中学防災講座は 3 つの柱です。一つは、「防災活動のリーダーたれ」ということで、君たちがリーダーになるんだというのが一つ目です。次は「継続は力なり」ということで、卒業しても防災のことを意識し続けていきなさいというのが二つ目です。最後は「故郷を好きになれ」という

H25～ こども夏祭り 防災テント



56

町内津波避難訓練

町民800人が参加



57

H26 徳島県議会・勉強会に参加



58

H26～ デイサービスにも出かけました



59

お世話になった方々

津田地区コミュニティ協議会
津田・新浜地区自主防災会
津田地区民生児童委員協議会
津田地区社会福祉協議会
津田・新浜地区青少年健全育成会
防災講座OB
徳島大学
ニタコンサルタント株式会社
徳島市危機管理課
徳島市災害ボランティアグループ



60

津田中学校防災講座は

1. 地域の防災活動の
リーダーたれ！
2. 継続は力なり！
3. 故郷を好きになれ！

61

ことで、故郷である津田のことを必ず見るような大人になりなさいというのが三つ目です。このような 3 つの柱で、防災活動をやっております。

小西から引き継いで三年間やってまいりましたが、教訓が一つあります。それは、いろいろ私も悩むことがあったんですが、「困った時は生徒を出せ」ということです。我々がいると全然相手にもしてくれない人達が、子どもが行きますととても嬉しそうな顔をして、「先生、いいですよ。これ出します。これやります。」となることがある。また子どもたちが積極的にしている姿を見ると、大人たちも頑張らなきゃいけないなというような感じで、本当に変わっていくんですね。ですから、私も午前中の話し合いを聞きながら、「自分は何してきたのかな」と思いながらも、やっぱり子どもたちの場を作って、子ども達を前に出して活動させてあげるのが大事だなと思いました。本当にここで津田中防災、学習することが非常に多かったです。

このようにずっと二人で防災講座続けてきました。これからもご支援よろしくお願ひしたいと思ひます。

コメント：谷本 明 （田辺市立新庄中学校 教諭）

新庄中学校の谷本と申します。津田中学校さんの活動とお名前は前々からずっと知っていたんですけど、今日改めて、きちんとした内容を聞かせてもらいまして、「やっぱり凄いな」と思いました。初めは少人数で始まったのが、年々パワーアップというかグレードアップしていった、「中学生が町を変えていくぐらいのレベルまで達しているな」と感じました。

新庄中学校でも同じような感じで、毎年度始めにテーマを決めて、総合的な学習の時間を使ってグループに分かれてやっていますけど、たくさん参考になる部分がありました。学校以外の機関との連携ですかね。例えば、大学とか市社協とか自主防災組織とかとのその繋がりです。新庄中学校は、学校主体でいろいろとやっているんですけど、そういう他との繋がりがまだ弱い部分があって、今の発表聞かせてもらってすごく参考になりました。

最後の「子どもを使え」というのも、本当にその通りだなと思いました。午前中の小木中学校のもそうだったと思うんですけども、生徒が行ったら動いてくれるということが多いというのが改めてわかりました。浸水域に、教師がそんなものを持っていったら、「そんなの家に貼るのか」って怒られそうな感じなんですけども、生徒が行ったらほぼ全員が貼ってくれたというのとか、生徒が直接住民宅を訪問しているとか、そういった事も凄く参考になりました。また真似させてもらいたいなと思いました。大変参考になりました。ありがとうございました。



谷本 明先生